

英国金融政策（2026年7月）

5会合連続で政策金利を3.75%に据え置き

2026年7月31日

エネルギー価格上昇の二次的影響は乏しく、BOEは様子見姿勢を継続

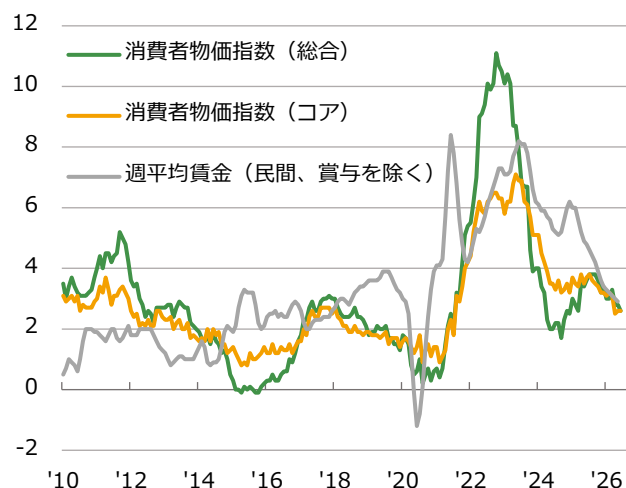
BOE（イングランド銀行）は7月29日（現地、以下同じ）に終了したMPC（金融政策委員会）で、市場予想通り政策金利を3.75%に据え置くことを決定し、30日に発表しました。5会合連続での据え置きです。票決は6対3で、3名が0.25%ptの利上げを支持しました。

声明文、議事録は全体としてハト派的な内容でした。中でも、エネルギー価格の上昇が賃金や価格設定に及ぼす二次的影響の証左がこれまでのところほとんどないこと、また、最近のデータには基調としてインフレ率が低下している明確な兆候があることを声明文に明記した点が特筆されます。これらに加えて、前回同様、軟調な労働市場と、家計・企業が直面する高金利環境を政策金利の据え置きを決定した要因として挙げています。実際、消費者物価指数は直近の6月で総合、コアとも前年同月比+2.6%と、コアは4月の+2.5%に次ぐ2021年7月以来の低い伸びで、2年余りにわたり伸び率の鈍化基調が続いています。見通し作成時点で市場が織り込む計0.5%pt程度の利上げを前提に、インフレ率は2028年1-3月期以降2%を下回るとの見通しを示しており、市場の利上げの織り込みが過大であることをBOEは示唆しています。

一方で、5年超にわたりインフレ率が目標値の2%をほぼ上回っているなか、インフレ見通しのリスクは上振れとBOEは判断しています。しかし、中東情勢次第で見通しは変化する余地があると付記しており、BOEの様子見姿勢の強さが窺えます。BOEは少なくとも当面の間、政策金利を据え置くと想定します。

英国の消費者物価指数と週平均賃金

(前年同月比、%) (2010年1月～2026年6月)

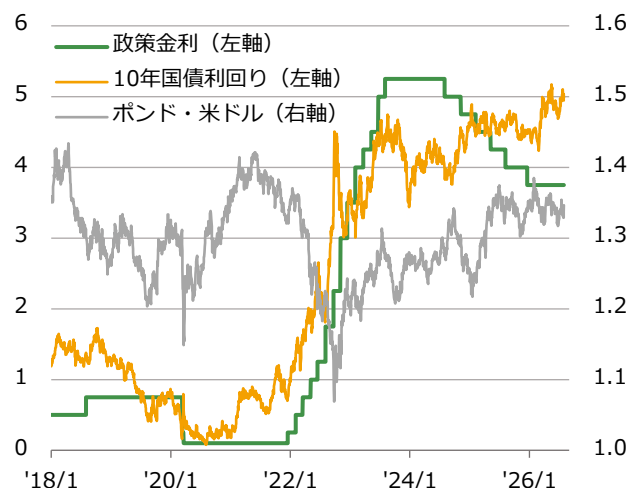


※コアは食品・エネルギー・アルコール・タバコを除く系列
 ※週平均賃金は3カ月移動平均で、2026年5月まで

(出所) 英国統計局

英国の金利と為替

(%) (2018年1月初～2026年7月30日) (米ドル/ポンド)



※政策金利は発表日ベース

(出所) ブルームバーク

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management